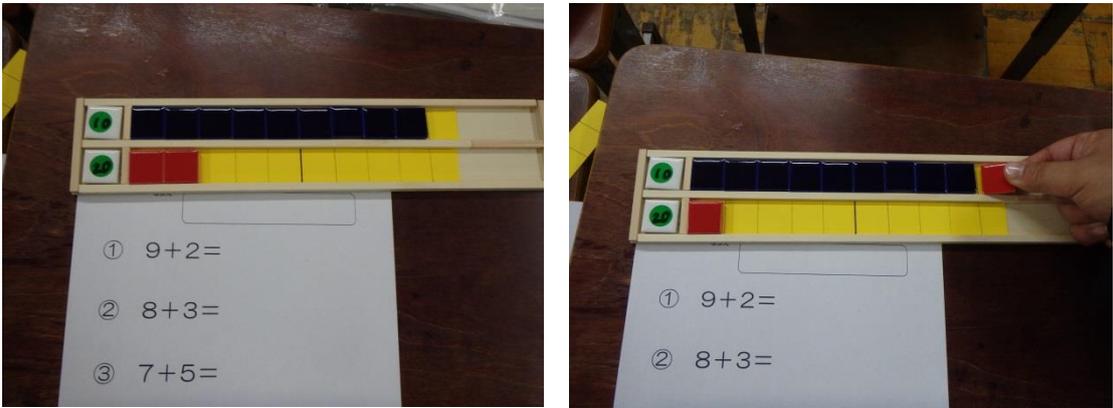


タイルで計算～くりあがりのある足し算～	太田ステージ段階	Ⅲ－２～
 <p>① $9+2=$ ② $8+3=$ ③ $7+5=$</p> <p>① $9+2$ の計算の場合 2色のタイルを数分だけ置く。</p>	<p>②あといくつで10になるかを考えて タイルを移動させる。</p>	
<p>1 教材の紹介</p>	<p>20までの数の足し算で、10のまとまりを意識しながら計算する教材。</p>	
<p>2 使い方</p>	<p>①木枠の中に、式に合う数の分だけタイルを並べる。タイルは2色。 【例】 $9+2 \Rightarrow$ 青いタイルを9個、赤いタイルを2個並べる。</p> <p>②10に近いタイルの方に着目し、あといくつで10になるかを考え、片方のタイルを動かして10のまとまりを作る。 【例】 9はあと1つで10だから・・・ 2個のうち1個を動かす。</p> <p>③10のまとまりと残りのタイルの数を合わせて答えを出す。 【例】 10と1で・・・11</p>	
<p>3 おすすめポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな力がつくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイルを移動しやすいように、右側にタイル何個か分のスペースをとってある。 ・10のまとまりの台紙を敷いておくことで10の補数が分かりやすい。 ・操作しながら視覚的にとらえることで数のまとまりを意識できるようになる。 	

【留意点・その他】

- ・ $4+8$ のように、たす数が大きい場合でも、8があといくつで10になるかを考えて10のまとまりを作るようにするとよい。(タイルの移動が少なくすむ。)
- ・ 1ずつ数えるのではなく、まとまりで数をとらえられるような言葉かけが必要。

教材・教具カード様式